

学校と地域の連携・協働による教育活動を通じた地域振興・再生の在り方に関して（検討の視点）

- 学校と地域の連携・協働による教育活動を通じた地域振興等に向けた人的ネットワークの構築、学びの機会の充実、地域づくりの推進方策等について、以下の視点から検討。

【検討の視点】

- 学校と地域の連携・協働をきっかけとした地域力の結集・人的ネットワークの構築、地域住民の学びの機会の充実方策についてどう考えるか。

→ 学校支援地域本部の活動が、地域の課題解決のための活動等に発展するにはどのようなきっかけが考えられるか。（学校教育の支援活動が、地域課題の解決等につながる社会教育活動・生涯学習的な要素も併せ持つ場合とは、具体的にどのような活動が想定されるか。）

→ また、社会教育活動として児童生徒の地域貢献に発展する活動についてどう考えるか。

※例えば、岩手県大槌町の「ふるさと科」（小中学校において、地域の関係機関との連携により行う郷土産業教育や防災教育等）の取組を通じた地域づくりや、奈良市の子供と地域の協働による学区ブランドづくり（地元で栽培した古代米で作ったお団子の販路拡大）をきっかけとした地域づくり等が該当すると考えられる。

→ このような活動を行う際、地域コーディネーターやボランティアはどのような役割を果たすことが望ましいか。

→ 学校と地域の協働の取組を通じて構築されたネットワークや学びの機会が、組織的・継続的な仕組みとして地域に根付くために必要なことは何か。

- 上記のネットワーク等を主体とした地域の課題解決や地域づくりの推進方策についてどう考えるか。

→ 学校と地域の協働を通じ、地域の課題解決や地域づくりに発展していくために、社会教育主事等の人的体制の整備（人材育成方策を含む）、社会教育施設や地域の関係施設・団体等との連携体制の整備等の在り方をどのように考えるか。

学校と地域をつなぐ人材の配置の在り方に関して (検討の視点)

- 学校と地域の連携・協働の強化のための推進方策における、地域コーディネーターの具体的な役割や、効果的な配置方策等、以下の視点から検討。

【検討の視点】※以下3点に絞り込み。

○ 学校と地域の連携・協働の強化のための地域コーディネーターの役割についてどう考えるか。

→ 地域コーディネーターに望まれる具体的な役割など。これまでの1～4回の部会での主な意見を踏まえ、以下のとおり検討の方向性を例示

- ・資質（学校の教育活動等への理解度、地域課題等への問題意識など）
- ・能力（学校支援や地域貢献に向けた企画力など）
- ・経験（PTA 役員活動や教職経験等の有無など）
- ・コーディネーターとしての活動内容等の具体的な要件、複数配置の場合の役割分担

（学校と地域の団体・企業等との連携促進のための調整や、教育委員会内の学校教育部局と社会教育部局、教育委員会と首長部局の連携促進のための調整など）

○ 地域コーディネーターの効果的な配置の在り方や全校配置に向けた方策についてどう考えるか。

→ 地域コーディネーターの活動の効果を上げるための具体的な配置の在り方など。これまでの1～4回の部会での主な意見を踏まえ、以下のとおり検討の方向性を例示

- ・今後の学校支援地域本部の全国的な推進方策（一律に全国配置が望ましいのか、地域の実情に合わせた配置とするのか、また、その場合の推進方策や、既に公費等を活用せずとも取り組んでいる地域との関係）
- ・一つの学校支援地域本部における望ましいコーディネーターの配置人数
- ・地方公共団体におけるコーディネーターの身分関係（子供の個人情報や守秘義務、事故への賠償責任等を踏まえた公的身分の必要性等）
- ・ボランティアの人数等含めた本部の体制づくりの在り方
- ・小学校区、中学校区、それ以上の広域、など、効果的な配置の在り方
- ・社会教育施設の職員が、実質的なコーディネーターとなる場合の考え方

○ 地域コーディネーターやボランティアの確保・養成・研修についてどう考えるか。

→ 地域コーディネーター、ボランティアの活動の効果を上げるための具体的な確保、養成、研修の在り方など。これまでの1～4回の部会での主な意見を踏まえ、以下のとおり検討の方向性を例示

- ・確保のための方策

(PTA活動、登下校見守り等の学校支援ボランティア活動、大人の学びの場としての放課後、土曜の生涯学習活動への参画をきっかけとするなど)

- ・養成のための方策 (コーディネーター等になる前の養成方策)

① 初期段階で、地域人材がいかに最近の子供たちや学校の現状を理解できるようにするか

② 自治体と大学やNPOが行うコーディネーター養成講座はどうあるべきか (都道府県・指定都市・中核市だけでなく市町村においても研修の充実を図っていく必要性)

③ マニュアル等をどのように整備するか

- ・研修の方策 (コーディネーター等となった後の資質向上のための研修)

(自治体と大学やNPOとの連携、能力や資質を標準化したマニュアルの整備)

- ・資格の付与や称号の必要性についてどのように考えるか

- ・コーディネーターとボランティアの養成の違いについてどのように考えるか

中央教育審議会における 「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方」 の検討に関する審議体制

